

授業時 子供の質問に正対する

美術の時間に、生徒は油絵を描いている。Aさんは、筆を持ったまま考え込んでいる。B教諭はその様子が気になってはいたが、もう少し様子を見ることにした。しばらくして、Aさんが手を挙げてB教諭に質問した。

Aさん：「先生、先生！」

B教諭：「うん？」

Aさん：「あの花びらを盛り上げたいんだけど…。」

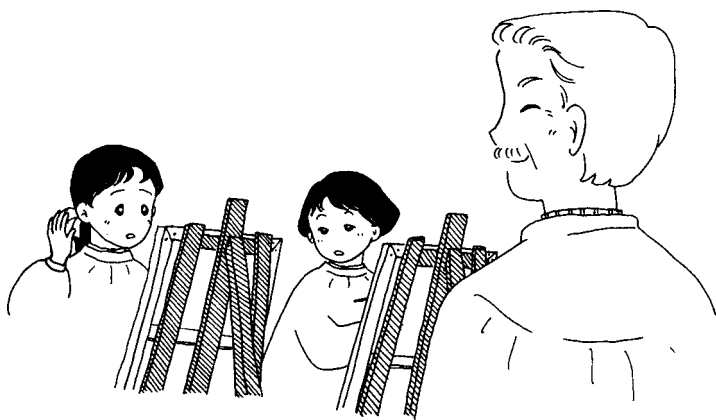
B教諭：「花びらを盛り上げる？花びらの描き方で迷っているの？」

Aさん：「あの花びらを筆で描くと、うまくいかない気がして。どうすればよいのか分からなくて…。」

B教諭：「あなたは、どういうふうにしたらよいと思うの？」

Aさん：「筆のタッチだと花びらの感触がでないみたいだから、ナイフとかを使おうと思うんだけど…。」

B教諭：「うん、それはいい考えだね。そうしてごらんよ。」



子供の質問が明確でない場合、相手の気持ちを肯定的に受け止め、質問内容を明確にして投げ返すことが大切です。

質問の内容を明確にする

子供が学校で質問する言葉は、必ずしも明確ではありません。質問に慣れていないために、うまく言えない場合や、語い不足のために考えや気持ちを表現できない場合、子供自身の考えがまとまらない場合など、様々な場合が考えられます。

質問が明確でなく、内容が不確かなときは、質問者に温いまなごしを注ぎ、肯定的な姿勢を示すとともに質問をせかさずに待ち、質問の意味や内容を確認することが大切です。

質問に込められた思いを明確にする

子供が授業や生活場面で質問するとき、言葉に子供の気持ちのほんの一部しか表現されていない場合や、言葉と内面の気持ちが違う場合があるのです。質問に込められた思いを明確にする援助が大切です。

その場で応じきれない質問は

自信のないことへの質問や、応じきれない内容に対しては、「はぐらかさない。」「ごまかさない。」「一緒に調べる。」「調べる方法を示す。」「調べた後答えることを約束する。」などの誠意ある姿勢を示すことが、子供たちとの信頼関係を高めていきます。

また、子供から誤りを指摘されたり、教師自らが自分の非に気付いたときは、素直にそれを認め訂正することも大切です。